

次第

- 福祉保健部長挨拶
- 委員長選出(神田寿恵氏)
- 議事

- (1) 保育現場の働き方改革研究会について
- (2) 大分県の現状と課題及び平成30年度の取組(資料1)
- (3) 保育現場の実態調査の結果について(資料2)
- (4) 委員からの事例発表・提言、意見交換
- (5) 主要課題の整理
- (6) その他

委員からの事例発表・提言、意見交換

- ・長期休暇(バケーション休暇)の取得、子どもから離れる休憩時間(ノーコンタクトタイム)の導入
- ・ICT化により働き方改革が進んだ
- ・夜間の研修や会議を平日の日中に変更
- ・表彰制度を導入
- ・管理職以外のリーダー会議を実施し、現場の意見を吸い上げ
- ・超勤をグラフ化し、勤務形態に反映
- ・労働局に育児休業や業務改善を推進する助成制度があるので活用してはどうか
- ・働き方改革の言葉は抽象的で、認識が人によってずれているので合わせる必要あり
- ・働き方改革の必要性は感じているが、ゆとりがない。小さな業務見直しから始めてはどうか

主要課題の整理(保育現場独自の原因)

■仕事の負担感(仕事の量・内容)

- ・クラス担任制度がほとんどのため、仲間に頼りづらい
- ・幼い子どもの命を預かっている責任の重さ。アレルギーや発達障害などの増加
- ・人間関係を意識して、お互いに遠慮し合う文化がある
- ・子どもの特性上イレギュラーなことが頻繁に起こる

■人材確保

- ・きつい、給料が安い、帰れないというマイナスイメージが定着
- ・再就職の際に他施設での経験年数を加味しづらい
- ・いてほしい時間帯に勤務してくれる人材がいない
- ・子育てしながらできる仕事ではないというイメージがついている

■働き方改革の取組

- ・強い意志を持って取り組まなければ、変化を望まない職員から反対されて終わる
- ・様々な思いを抱える保護者や地域に対して、正確に伝えるのが困難
- ・IT化は、先生が楽をしようとしていると保護者から誤解される
- ・保護者や地域住民に対する啓発や広報が不足している

⇒本日の議論を踏まえ、委員長と相談の上、主要な課題を決定する